

來るのだ。

2、議長推薦 (司會者一任)

議長

原松愛三郎

3、議長挨拶

赤子も三年すれば三つになる、大きくなる程下駄も着物も揃へなくてはならぬ、吾々の大會も七つになつた、然し九州に農民運動が起つてから九十年になる、吾々として九十年になつたわけだ、此の間雨嵐火凡ゆる難關迫害があつたが之を蹴飛ばして來た十一年の闘争歴史は集結されて今後の闘争の土臺となつた、十月十九日は吾々に取つて感慨無量のものがある、大正十四年十月十九日は三發基郡事件に於ける上納問題は全九州の小作人の血を湧き立たせ闘争に向せしめた日である、今より省

るとよくもあの迫害に耐へ忍んだと考へる今又大早魃による大多数の農民、勞働者の生活はどうなるか、非常時は國際的でありと叫ばれるが對外國其他の諸問題にせよ國民の生活安定が先決問題である、借金、税金どころの騒でない、今年の兵糧米はどうするか、之を打破する事が非常時の打開である、偉い人達は此問題に觸れまい觸れまいとしてゐるのだ、吾々自身の力に依つてのみ解決が望まれるんだ、大會は闘争の力と團結の力で解決せんとする、吾々議會の一端である來る臨時議會で如何なるもの議するか、吾々地獄に對する救済を當にする者は一人もないのだ、福は命の根であつて社會の土臺を造つてゐる、其の福を作るのは農民だ「豊葦原の瑞穂國」は何故に百姓は食へないのだ」と言ふ歌があるが、勇氣を